

熊谷市高齢社会対策基本計画（案）に対する意見及び市の考え方

1 意見募集期間

令和3年1月22日（金曜）から令和3年2月12日（金曜）まで

2 意見の提出者数及び意見等件数

提出者数 8名

意見等件数 22件

3 意見の概要と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
6 ページ	「単身高齢者台帳登録者」の意味がわからなかったので、「近所に親族がいないなどの理由で見守りが必要な65歳以上の一人暮らし高齢者については、民生委員を通して単身高齢者台帳の登録を行っています。」このような文章を入れてわかりやすくするといいと思います。	「熊谷市では、近所に親族がおらず、民生委員の見守りを希望される65歳以上の一人暮らしの方を、本人からの申し出に基づき単身高齢者台帳に登録しています。」と注釈を加えました。
35 ページ	地域活動の参加支援について、施策の方向の中に、公共交通の充実を図り、参加しやすい体制をとる、などの文言が必要である。	公共交通の充実については本計画95ページに掲載しております。35ページにおいては地域参加の手段ではなく、機会、場の提供に主眼を置いているため、改めて文言の追加は行わないこととします。なお、今後の公共交通の整備方針につきましては、市内全域の公共交通政策との調整を図りながら、研究していきます。

41 ページ	<p>第3節 生涯学習の推進</p> <p>中央公民館の直実市民大学や妻沼中央公民館のけやき大学、埼玉未来大学は、多くの市民から好評です。参加要件を全市民対象としてください。</p>	<p>直実市民大学は20歳以上、けやき大学は年齢制限なく市内在住、在勤の方であればどなたでも受講可能です。</p> <p>なお、埼玉未来大学は、公益財団法人いきいき埼玉が主催し、その目的をシニアの方の学びの場の提供としておりますことから、受講資格を50歳以上としているとのことです。</p>
42 ページ	<p>各単位（赤城町1丁目等）で歩行するルートを設定し、毎日準備運動と歩行を実施する。</p>	<p>日頃から体力の維持、向上に取り組むことは、健康で生きがいを持って暮らすことにもつながります。</p> <p>まずは準備の整った自治会や隣近所等から取り組んでいただき、その成果を43ページに記載の高齢者体力測定会などで御確認ください。</p>
42 ページ	<p>生涯スポーツの推進における施策の方向に、「屋外スポーツの場にトイレの設置などスポーツ環境を整えていきます。」このような文言を入れてスポーツの推進を図っていただきたい。</p>	<p>生涯スポーツの推進は、高齢者が健康で生きがいを持って生活するために重要なことと考えています。そのための環境整備についても同様に推進していかなければなりません。屋外施設におけるトイレの整備等、ハード面の整備については計画の中で一律に定めるのではなく、利用状況に応じ個別に判断されるべき内容ですので、文言は現行のままとします。</p>
44 ページ	<p>ニャオざね元気体操を各町内会全体で実施する。</p>	<p>ニャオざね元気体操は、高齢者が歩いて通える範囲にあることを想定しています。今後も市全体に、ニャオざね元気体操が普及するよう取り組んでいきます。</p>

47 ページ	<p>「フレイル」の説明を、健康増進計画の61ページのようなイメージ図で示してほしい。</p>	<p>フレイル及びその予防の取組について、視覚的にわかりやすくするため44ページおよび45ページにイメージ図を挿入しました。</p>
47 ページ	<p>フレイルについて、歯科に該当するフレイルは「オーラルフレイル」と表記された方が良いのでは？</p> <p>また、「2 日常的、継続的な健康づくり…」にて、フレイル、サルコペニアの予防について説明されたらどうでしょうか？</p> <p>サルコペニアの説明があった場合には「用語解説」にサルコペニアについても解説願います。サルコペニア、フレイルは市民に広く関心を持ってほしいことです。</p>	<p>口腔の健康は全身の健康につながっているという観点から体全体のフレイル対策として進めているため、現行の表現といたします。</p> <p>また、フレイル予防について図を用いて説明するとともに、48ページでサルコペニアがフレイルの身体的要因であることを記載し、巻末でサルコペニアの用語解説をします。</p>
50 ページ	<p>町内会役員はユニフォームを作り、町内を歩くときは必ず着用し、市民とあいさつを交わす。お互いが顔見知りになることにより、次期町内会役員を育てる。</p>	<p>本計画作成におけるアンケート調査においても地域の人間関係の希薄化が認められることから、コミュニティ意識の醸成は重点課題として掲載しています。引き続き、関係機関の協力を得ながら、地域のパトロールを行う自治会に対し安全ベスト等を提供することなどにより、地域活動の活性化を図っていきます。</p>

61 ページ	<p>若年性認知症の方や、介護保険サービスの利用が優先される脳卒中の後遺症で高次脳機能障害となった第2号被保険者の方について、介護保険サービスのなかで、支援に携わる方に研修を行う、当事者家族の集う場を設けるなどを計画に盛り込むと共に、器質性精神障害（認知症、高次脳機能障害）との診断につなげ、併用できる障害福祉サービスの利用や、障害年金の支給の可能性を探っていくよう支援する仕組みを構築していくことを計画に記してください。</p>	<p>高次脳機能障害の方への支援につきましては、大変重要な課題であると認識しています。</p> <p>本計画におきましては、83ページ及び84ページの「4 地域共生社会の実現」に記載のとおり、法改正により介護保険と障害福祉のサービスを一体的に提供できる「共生型サービス」が創設されたことを受け、サービス事業所の設置等、関係機関等と連携しながら進めます。</p> <p>計画への具体的な記載につきましては、本計画は高齢社会に主眼を置いた計画となりますので、現行のままといたしますが、共生型サービスの枠組みを元に、同時に策定しております第8期介護保険事業計画及び熊谷市障がい者支援計画等関連計画と連携しながら支援の仕組みを構築します。</p>
64 ページ 69 ページ	<p>「徘徊高齢者探索システム」、「あんしん見守りシール」のところ</p> <p>若年性認知症や脳卒中の後遺症で高次脳機能障害となった第2号被保険者の方も、徘徊高齢者等家族支援事業の対象にする、あるいは対象にすることについて検討していくことを計画に記してください。</p>	<p>現時点においてはそれぞれ利用者を高齢者に限定しているところですが、利用者の拡大については近隣市町村の動向などを参考に検討していきます。</p> <p>高齢社会に対する計画書としては現行どおりとします。</p>

90 ページ	<p>市からの放送は公園などに大スピーカーを置いて放送しているが、聞こえないし迷惑な時もある。そこでパソコンを1台各家庭に置いて、市からのニュース、健康体操が家でできるようにすれば、ペーパーレスとなり皆が集まらなくても体操ができるようになったりいろんなことが実現する。操作状況を遠方の家族に送れば安否確認もできる。</p>	<p>防災無線情報については、熊谷市では平成27年度から防災無線情報のメール送信及びパソコンによる音声読み上げ配信を行っています。健康体操の配信については、座ったままでできるチェアエクササイズなどいくつかの動画を今年度から市のホームページ上で公開しています。</p> <p>情報伝達について、今後も高齢者に配慮した多様な情報手段を検討して参ります。</p>
90 ページ	<p>避難行動要支援者の支援計画について、同意者の個別計画策定率をせめて70%にすべきではないか。</p>	<p>支援計画の策定率は、個人情報保護の意識の高まりや地域・近所の関係の希薄化等により、横ばいとなっていることから、先行する熊谷市地域福祉計画策定時から目標値を見直したところではあります。引き続き、個別計画策定の前提となる要支援者の同意が得られるよう努めます。</p>
94 ページ	<p>高齢者にやさしいまちづくりの推進で【施策の方向】「歩道の通行を阻害する放置自転車の撤去や…交通環境の整備を進めます。」に「歩道の整備を図ります。」を加えてください。歩道に雑草が伸び危ない箇所が多く見受けられるため。</p>	<p>御指摘いただきました歩道の雑草につきましては、歩道の安全な通行を阻害する要因となりますことから、原案の「交通環境の整備」に内包されているものと認識しております。よって該当箇所は原案のままいたします。</p> <p>なお、雑草に限らず、通行に危険と感じる箇所がございましたら、市のホームページにも掲載しております熊谷市道路等通報システム等により御連絡ください。</p>

高齢者等のより安全な居住生活を可能とするため、以下の追記を提案いたします。

(1)【施策の方向】最終行に『また、近年増加している冬期の「浴室等での事故」や、夏期における「室内での熱中症」の防止を図るための対策を促進します。』

(2)具体的な施策として、

①『■浴室または脱衣室等への暖房設備等の導入の促進
高齢者の「ヒートショック」による入浴中の事故を防止するために、浴室や脱衣室等への暖房整備等の導入を支援し、「温度のバリアフリー化」を促進します。』

②『■居室における熱中症予防機器の普及促進

高齢者の「居室内での熱中症」を防止するため、熱中症の危険を知らせる機器等の普及を促進します。』

を追記する。

浴室等での事故や室内での熱中症により亡くなる高齢者の問題は大変重要な課題であると認識しています。夏期の熱中症対策としては、これまでも単身高齢者向けに熱中症予防グッズの配布等を行い、対策を強化してきたところですが、冬期の「ヒートショック」による入浴中の事故については、入浴設備、頻度、時間帯等個々の入浴環境も異なることから、直結する対応施策を用意することが難しい状況にあります。そのため、「浴室等での事故」に関する追記については現行のままといたしますが、熱中症対策事情について、引き続き周知に努めます。

	<p>空き屋の活用で、朝 6 時から夜 9 時まで空いた家を休憩場所とし皆が集まれる場所を作る。単身高齢者の夕食がとれる場所や赤ちゃんの面倒を見る場所、子ども食堂や嚙下障害の予防のための歌声喫茶など構想は広がる。</p>	<p>空き屋の活用については、物件の所在地や所有者の意向等により一律の対応が難しいところですが、御提案の趣旨に沿うものとして、36 ページに地域サロンを記載しています。これは地域の公民館や集会場、個人宅等で世代を超えた住民が交流することを目指すもので、地域活動の拠点づくりの一環として位置づけています。</p>
	<p>夜警団を結成し、夜回りの後、お年寄りを送り届ける。</p>	<p>本計画においては、民生委員の活動支援や民間事業者との協定締結などを通じ、地域の見守りネットワークの推進を図ることとしています。また、徘徊高齢者探索サービスやあんしん見守りシールなど認知症高齢者を早期発見できる仕組みも周知します。</p>
	<p>全体的に施設等は整備されているが、利用が一部の人に限られていて、施策のメニューが少なく感じる。コロナ禍後の生活は今までのように皆で集まる機会の増加は見込めないため、今後はネット、デジタル化に頼らざるを得ない。今まで政策に充ててきた費用を、担当職員の IT のスキルアップや高齢者への指導などに使うことも良いのではないかと。</p>	<p>引き続き、限られた財源の適切な配分やインターネットの活用等に努めるとともに、指定管理者制度による民間の創意工夫のもと施設の管理運営に努めます。</p>

	<p>軽度日常生活援助について、ホームページの情報が乏しい。ニッチなニーズ戦略が必要である。高齢者で介護を必要とはしていないが、自分では不安でできない日常作業（例えば、脚立に乗った天井の電球交換作業、水道のかすかな漏れなど）について、有償でも市で相談・サポートしてもらえると助かります。</p>	<p>軽度生活援助事業は、日常生活における自立を支援することを目的に、熊谷市シルバー人材センターに委託して実施しています。</p> <p>御意見の例にある脚立等の専用の道具や水道の漏れへの対応といった専門的な技術を用いる作業に関する相談に対しては、軽度生活援助事業の枠組みとは別のシルバー人材センター独自の生活支援の利用などを御検討ください。</p>
	<p>浄化槽管理費の費用は高額であり、一般として10年間の補助金は実施されているが、現役世代のいない単身、夫婦高齢者世帯のほとんどは補助期間が過ぎており負担感が大きい。引き続き補助金を要請したい。</p>	<p>合併浄化槽の補助制度は、従来5年の補助期間であったものが10年に延長されており、これ以上の期間延長は考えておりません。</p>
	<p>アンケートにあるように、市内のどこに住んでいても、暮らせるように交通手段の拡充を図ってください。</p>	<p>交通手段の拡充については、熊谷市地域公共交通網形成計画等に基づき、現況に応じた公共交通ネットワーク形成を推進します。</p> <p>なお、今後の公共交通の整備方針につきましては、市内全域の公共交通政策との調整を図りながら、研究していきます。</p>
	<p>要支援行動の必要な方への計画は、市が中心になって進めてください。</p>	<p>引き続き、個別計画策定の前提となる要支援者の同意が得られるよう努めます。</p>